

被爆アオギリ二世

1945(昭和20)年8月6日、原子爆弾によって焼野原となった広島は、「75年間は草木も生えない」と言われました。

爆心地の北東約1.3kmにあった旧広島逓信局の中庭で被爆したアオギリは、熱線と爆風により爆心地側の幹半分が焼けてえぐられましたが、樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けて、翌年には焦土の中で青々と芽を吹き、人々を勇気づけたそうです。

その後、被爆アオギリは1973(昭和48)年に平和記念公園へ移植されました。広島市は“平和を愛する心、命あるものを大切に作る心”を後世に継承するため、この被爆アオギリが実らせた種を育て、成長した苗木を「被爆アオギリ二世」と名付けて配付しています。



〈広島 平和記念公園の被爆アオギリ〉提供：広島市



〈配布されている苗木〉 情報提供：広島市

この被爆アオギリ二世が高松中へもらわれてきたのは2013(平成25)年のこと。三年生が修学旅行で広島を訪ねた際に分けていただきました。

原爆投下から75年経ったこの夏、成長したアオギリを高松中学校の校庭に植樹して、平和を愛し命あるものを大切に作る心を、この木と共に育てていくことをあらためてここに誓います。

2020(令和2)年 夏 図書委員会一同